

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 391 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2016.10.07（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 984 部\*\*\*\*\*

□ 目次 □-----

<巻頭言> 忘れられないこと——2016年9月 塩谷哲夫

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.138』発行されました

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<編集後記> 森のことは森に聞け

---

<巻頭言> 忘れられないこと——2016年9月

---

9月10日。つくば市で「NPO 里山再生、食の安全を考える会」総会があった。  
このNPOは2011年3月11日の東京電力福島第一原発の暴発によって生産がかなわ  
なくなった原木シイタケ生産者と消費者を中心に立ち上がった組織である  
（『電子耕』347号参照）。茨城県の原木しいたけは、大部分のホダ木を福島  
県南部の阿武隈山地のナラ、クヌギに依存していた。その原木山が放射能に汚  
染されて壊滅してしまったのである。

以来5年、NPOは東電や林野庁、県などに働きかけ、基金を積み、交付金を  
獲得したりしながら、地元の里山の除染、環境整備、子供たちの食育などに取  
り組んできた。しかし、先が長い取り組みである。なかなか福島の森にまでは  
行き着きそうにない。萌芽再生で森は甦るのだろうか？ 国・県の研究機関に  
は、林床の除染、萌芽再生による森の再生、等の長期にわたる基礎的な研究に  
本気で取り組むようにしてほしい（予算措置）。

日本における里山の創生・活用は、自然と人間の共生の実践として、未来に  
もつながる世界的にも大きな意義をもつものである。出席した自民・民進の国  
會議員はじめ、あいさつに立った誰もがその意義を讃えた。しかし、放射能に  
汚染された里山を再生させることは実践的には極めて厳しい。そもそも、政府  
・東電には「その気」はない…？

NPO 副会長の K さん（福島）は、現地では森の除染はまったくやられていず、「除染」に名を借りた樹木の伐採・販売が大手を振って行われていると憤っていた。この声を原発再稼働にうつつを抜かしている政府や東電に届けよう。

放射能汚染は広大な地域を人々が住むことがかなわない「帰還不可能」地域と化した。政府は「ふるさとに帰りたい」という人々の気持ちに便乗して、「もう危険はなくなった」と言って規制を解除して「帰還」させようとしている。責任回避、財政削減につとめようとしているとしか思えない。里山と結びついた営みに、安定して働ける、暮らしていけるふるさとが再生されてこそ、人々は帰還できる。

＊

9月11日。国立病院機構・霞ヶ浦医療センターで木村真三氏（獨協医科大准教授）の講演会があった。100人を超える聴衆が来ていた。テーマは『福島第一原発事故から5年。みんなが知らない福島の問題』であった。

福島には未だ「変えるべきか帰らぬべきか」悩んでいる避難区域の住民がいる。政府は無情にも放射線量が低下したからと帰還促進政策を推し進めている。木村は「しかし、既に帰還をあきらめた人は2014年9月時点で26%、まだわからないと答えた人は44%超である。だが今、福島は深い闇の中にある。甲状腺がん等の危険が潜伏している。広島・長崎はそうだった」と危険性を指摘する。木村は福島の二本松に研究室分室を設置して調査を継続している。「私に出来ることは調査を続け、結果を公開することだ」と言う。そして、「帰還には生産者が動くことが必要だ。安全確保と働く場を要求すべきだ」と指摘した。

木村が訪ねたチェルノブイリ原発から30km圏内のシャマショール村では、30年たった今、帰還した人々のうち現在暮らしているのはわずか3人であったと紹介した。

＊

9月19日。一年前のこの日、自公政府は参議院で「安全保障関連法制」を不法かつ強行採決した。日本を「戦争をする国」にしてはならないとの思いから、「安保法制廃止」を要求して、つくば市中央公園には沢山の人々が集い、パレードした。

私たちには、風化させてはいけない、忘れてはいけないことがある。

(2016.09.30)

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事・東京農工大名誉教授

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.138』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.138』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

放射性セシウムの土壌中の挙動と流域水系における動態◎塩沢 昌

[第 153 回定例研究会]

実践に学ぶ「土づくり」の思想——国際土壌年にあたって

健康な暮らしは健全な土壌から◎小泉浩郎

I 高松さんの「土づくり」の思想◎塩谷哲夫

II 私の「土づくり」半世紀◎高松 求

III 高松さんに学ぶ土づくり

——緑肥の利用と耕耘体系について◎小松崎将一

IV 土壌生成メカニズムからの土づくり◎高味充日児

V 植物も少し厳しい環境だとよく育つ？

——微生物のはたらきから考える◎成澤才彦

[特別寄稿] 3.11 から 5 年 いま必要な養生法とは◎今村光臣

[現地レポート]「NPO 法人きらら女川」を訪ねて

——震災を乗り越えて障害者福祉に取り組む◎渡邊 博

<連載> “生きもの語り” の世界から(9) 生きものの死を見つめる／宇根 豊

<農村定点観測>

「えすぺり=希望」を込めて／福島県 大河原 海

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

---

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5 版・30 ページ) が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み 500 円です。ご希望の方は [yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org) までご連絡ください。

(新刊)

- No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ  
栃木県那須塩原市  
酪農・教育ファーム・レストラン 人見みろ子さん  
(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

- No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を  
埼玉県上尾市 榎本美津子さん (小井川敏子聞き書き)
- No.2 世羅高原のそよ風になりたい  
広島県世羅町 井上幸枝さん (後由美子聞き書き)
- No.3 むらにまちに子どもたちにふるさとの味を伝えたい  
鳥取県鳥取市 西山徳枝さん (小泉浩郎聞き書き)
- No.4 働きやすい作業環境の改善  
徳島県 藍住地区のお母さん達 (小林徳子聞き書き)
- No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い  
茨城県大子町 齊藤キヌ子さん (臼井雅子聞き書き)
- No.6 デパートに進出した農村女性  
栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ (阿久津加居聞き書き)
- No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる  
群馬県嬬恋村 丸山みち子 (丸山みち子著)
- No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ  
栃木県那須塩原市 人見みろ子さん (阿久津加居聞き書き)

---

<編集後記> 農の技 (わざ) とは何か

---

少し前になるが (08/06)、日本農業普及学会が主催する EX セミナー (「営農することとイノベーションすることー“減反廃止”に備えるコメづくり」) に参加した。

現地見学では、茨城県龍ケ崎市の (有) 横田農場を訪問した。横田農場は 130 ha の大規模水田経営で知られる。代表は横田修一さん。今年 40 歳になる。

栽培から経営までさまざまな話を聞くことができたが、興味深かったのは「除草」についてのお話しであった。

横田さんの家では田んぼの手取り除草をずっと続けてきたという。その結果、田んぼの区画を広げる基盤整備の際、たいへん面白い風景が広がったという。基盤整備では畦をいったんはずしていくから、どこが誰の田んぼかわかりにくくなる。だが、横田さんの家の田んぼはすぐわかった。そこだけ雑草が際だって少なかったのである。

それだけ長く手取り除草を続けてきたということなのだが、今でも、横田農場では従業員も含めて手取り除草を続けているという。それは、経営効率云々ではなく、横田農場の、横田農場で働く人間としての誇りにもつながっていると言える。

それと、横田さんは、中学 3 年のときのエピソードを話してくれた。横田さんは小遣いかせぎもかねて田んぼの畦草刈りを手伝ったそうなのだが、お母さんに追いつけなかった。体力は自分のほうがある、草刈り鎌の手入れも万全だ、なのに勝てない。お母さんのほうは、歯の研ぎ方を極端にしないで刃こぼれしないようにし、極端に深刈りしないでテンポ良く仕事をしていた…。という話である。

技術というものの考え方は、要素を分割しそれぞれで 100% のパフォーマンスを実現する、そして作業効率を最大化させる、それもできるだけ短期間に結果をだす、というのが基本なのではないか。だが、横田農場で見聞きしたのは、それとは微妙にずれていた。「ずれ」というのが適切でないのであれば、長い目でみて、結果的に、総合的に意味がある、というものであった。

この日は真夏日であった。ふだんほとんどの仕事をしているようなわたしのよ  
うな人間にとっては、外にいるだけでしんどくなるような炎天下であったが、

横田農場の従業員の方は田んぼの中を歩きながら除草をしていた。彼は、その田んぼがいつ田植えをし、どんな管理をしてきたかきちんと把握していた。横田農場の田んぼは 300 枚以上 (!) あるのにである。

農の技 (わざ) とは何なのか、その深みについて考えさせられる 1 日であった。

2016 年 10 月 06 日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの方の書評・紹介記事をいただいています。感謝、感謝です。

---

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考 — グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----

次回 392 号の締め切りは 10 月 17 日、発行は 10 月 20 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 391 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2016.10.07（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*